

アズマイチゲ *Anemone raddeana* Regel

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯性の、代表的な早春植物である。愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。根茎は横にはい、ところどころに紡錘形のふくらみがある。根出葉は 2 回 3 出複葉で、小葉は 3 出状に分裂する。花茎は高さ 15~20cm、長軟毛があるが落ちやすく、茎葉は 3 枚が輪生し、柄があり、3 出複葉で垂れ気味に開出し、小葉は鋸歯はあっても深く切れ込むことはない。茎や葉は全体に青白色を帯びる。花期は 3~5 月、花茎に 2~3cm の花を 1 個頂生する。がく片は 8~13 枚で白色、裏面はやや紫色を帯びる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (村松正雄 15047, 1994-4-17)、
3 東栄 (小林 41195, 1993-4-5)。

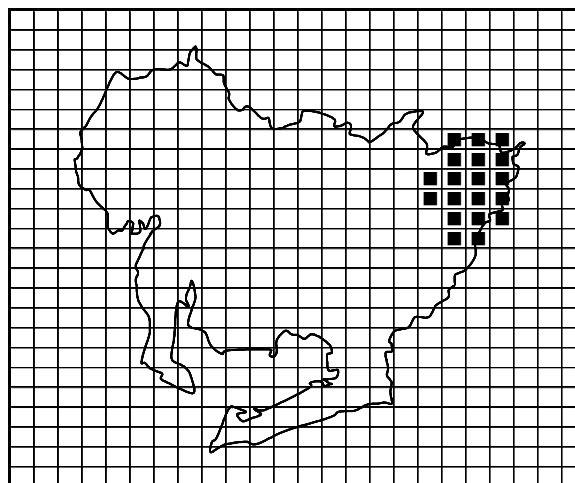
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。春早く開花し、夏には地上部が消失する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は少ないが、その場所ではある程度の個体数が見られることが多い。しかし、二次林の利用停止に伴う林床植物の繁茂やスギ、ヒノキの造林により、開花個体は著しく減少している。道路沿いの群落の場合は、拡幅工事等により生育地が削られたり埋められたりするおそれがある。

【保全上の留意点】

造林地については、間伐などの手入れが必要である。開花期が早く少数回の調査では見落とされてしまうおそれがあるので、調査の際には注意を要する。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

「イチゲ」は 1 花のことで、花が 1 本の茎に 1 個だけつくからである。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.233, 平草本Ⅱ p.69, 平新版 2 p.135, SOS 旧版 p.49.